

聞こえない人とは

耳が聞こえないことは、外見からわかりにくいため、周囲の人々に理解してもらえないことがあります。

また、音の情報が入らないため、周囲で起きたことに気づくのが遅れます。そのため、生活のいろいろな場面で困ることがあります。

聞こえない人を下記のように分けることができます。

ろう(あ)者

生まれつき耳が聞こえない、または言葉を獲得する前に聞こえなくなった人。

手話を主なコミュニケーション手段としている人が多くいます。

難聴者

聞こえにくいけれど、聴力が残っている人。補聴器を使って会話できる人が多くいますが集団やにぎやかな場所では音が聞き取りにくくなります。

中途失聴者

言葉を獲得してから聞こえなくなった人。明瞭に発音することができるが、そのため障害に気づいてもらえないという経験をした人が多くいます。

盲ろう者

目（視覚）と耳（聴覚）の両方に障害を併せ持った人。その中でも、見えない聞こえない人を盲ろう者といいます。見え方、聞こえ方によりコミュニケーション方法も多様です。

2019年1月1日
「大津市手話言語
条例」を施行しま
した。



医学的な区分はありません。
自分をどうとらえているかは本人が決めています。

聞こえない人と接するには

後ろから声をかけられてもわかりません

外見では「聞こえない」ことがわからず常識がないと誤解されることがあります。

- 目と目を合わせてから話してください。
- そばに行って軽く肩をたたいて知らせるのも1つの方法です。

口に手を当てて話す、マスクをしたまま話す、早口で話すのは内容がわからないので困ります

聞こえない人は口形も大事な情報源です。

- 口元が見えるようにして早口にならないよう、話してください。
- 「たまご」「タバコ」など、口形が同じで意味が異なる言葉があります。身振りや筆談など見てわかる方法で補うと安心です。
- 日時などの数字は指で示す、紙に書くと間違いがないです。

筆談が苦手なろう者がいます

高齢ろう者の中には幼少期に十分な教育が受けられなかった人がいます。そのため込み入った話や感情を文章にしたり、読んで理解することが困難な人がいます。

- 簡潔に書いてください。ただし、ひらがなばかりで書くと、意味をつかみにくいことがあります。漢字もまじえて書いてください。

